国立国会図書館　　タイトル『太子伝記』　請求記号

ガラス使用

国会図
21.12.22

国立国会図書館　　タイトル『太子伝記』　請求記号

三十代

舒明天皇

諱息長足日廣額天皇高市岡本宮治十三年

元辛巳也春正月ひつ

く〻笠小墾田天皇三十六年三月ひつ

ひつのくわいもとにてごまうすこの河かみの

てらの西村皇子と山背大兄王とまうし

大兄王の是上宮豊徒のこ

ゑんこゑ蘇我馬

子大臣ひとりそのむら毛〻百見ること

大臣たゝんと民のそみ

わりて大臣も帝位につ

と群臣の恠うらんと欲するを
ばかりて云はく「吾は是
群臣わく「何ぞ先づ
る連ひとりすんて云ふ
みことのりして曰はく「
らんとおもふ」と云ふ
大臣と大連と群臣に詔
つわが天皇と立てまつりて
境部臣坂瀬山背大兄王と
群臣みことのりを受けて并

大臣兵と
おもう
て
坂瀬臣并
二王と

国立国会図書館　　タイトル『太子伝記』　請求記号

すめら神金と天皇みこと
く辞てうけ給ふべしとのたまひ
ければ勅して給ふべしとのたまひ
二年庚寅冬十月天皇明日を期
けつつ給ふ
三年辛卯百済王義慈王の豊璋とよあき
せて質とす是いまの百済王の祖なり
四年壬辰冬十月大唐の
六年甲午春正月十五日と
拍とあり秋八月名がり百方み見ん

七年乙未春三月東の方小ちん
八年丙申春正月朔日蝕夜六月と
丗六ありき
九年丁酉春二月大星ありて
ふりていくらのごとし河僧旻法師ありて
と天狐といふとこそ蝦夷
十一年己亥春正月雲ありてつづらふる
長星あり天下ふる倉ふ飢を冬十一
月百済川のほとりの大寺に九ぢ塔とそ
十二年庚子春二月より丹神に冬十月百済

国立国会図書館　タイトル『太子伝記』　請求記号
ガラス使用

十三年甲辰冬十月天皇崩于[押坂内]山陵[葬]
皇極天皇
諱天豊財重日足姫天皇明日香川原板
葺宮治三年
元年壬寅春正月[以]大臣蘇我蝦夷[為]
[国]紀[臣]阿曇[連]比羅夫[等]
[遣]于[百]濟[令][迎]
天皇之喪[仍][奉]
大小王[及]
皇子翹岐[并]
[貢]調[使]
大小王[及]皇子翹岐[并]
[貢]調[使]
[共][来]
[二]月[百]濟[遣]
[弔]使
路[子]
[従]
[天]皇之喪[仍][奉]
[送]于[海]
[共][来]
[二]月[百]濟[遣]
[弔]使
路[子]
[従]
[天]皇之喪[仍][奉]
[送]于[海]
大小王[及]皇子翹岐[并]
[貢]調[使

国立国会図書館　　タイトル『太子伝記』　請求記号

八月天皇南渕河上ゟ幸てひざまづいて
四方をおがみ天ゟあまくだりいでいのりまうす
いうまうす大みわの
大日面穀成熟九月九日
うへの酒ものて百済大
てたてまつる今の大和る冬十二月大后薨ぬ蝦夷を
のが祖の廟とうづきされ
とうたひ小子とつくる
うう并一百八十部曲とおこうしてわうめ
双墓とうづき殉らり一とい大陵とふ

大后れ墓ところ一をい小陵とふ入鹿が墓とを
二年癸卯春三月丙申朔己酉天ゟふら
かかい一色ゟあわとう雪わうるごと地ゟふる
秋七月ゟの池水ふうしてその
色蓋汁のごと大小の魚これ死ぬ冬十
大后蝦夷やましみのうて
せど私ら恙寇と男入鹿ゟうけ
乃往ゟぞふうそのみなとん
物部大后とふ大后れ祖母て物部れ削
大連の妹也ふうむとふ

十一月八鹿谷(ろくのたに)ヨリ小池谷(こせのたに)ヨリ俣太等(またら)ヲ
ヨセテ□□ヒシヨセ山背大兄王(やましろのおおえのみこ)
等(ら)ヲヲノノモ小栽(こい)シテモ□□寺
ニ大兄王(おおえのみこ)ヲ奴(やっこ)三成救(みなり)十人トヒキアテ
ヌトキニアヤシ

万死(ばんし)ヲ出(いで)
ヲノレ□□ヒキ
ヲノレ
ヲノレ

仰せごとも大兄王すでに獣のごとく
円寝みるげのさまをみて山のごとくおそれおののきて伺候ひいでられもぐりつつのその一身とやさ骨の灰のごとくなりはてんことをかなしびてつとめてこころをやすめんことを欲せといえるみ言のりをあ

みる事等とこころえつつ紋て死給ひ雲のごとく変化て大兄の情蓋とり妓楽ありそこと昭拘てかりの入鹿りさまを雲のごとくれまり大兄入鹿の大兄王等と栽一をりとてうたげさせてみかひんとくりつつしと

皇暦仁文也一抗云癸卯年十二月十一日乙巳のくしの日のいのとき小蘇我入鹿の児林臣入鹿致奴王児母徳太古臣

大伴馬甘連中臣堀屋連枚夫等六人悉
逆とおもうして太子の孫男女二十三人と対
もうしてつぎつぎに害されおわりぬ
山背大兄王　殖栗王　茨田王　卒末呂王
蒼平女王　春米女王　辺代王　来田女王
磯部女王　三枝王　三枝末呂古王　馬屋女王
財王　日置王　斤岐女王　白髪部王　手鴈女王
孫雄波王　末呂女王　弓削王　佐保女王　佐々王
三鴈女王　甲可王　尾張王
時うり王ら等うれ山中に入て六ケ日と経ぬ

かのうれ日の辰のときふたり弓削王現ちに
ゆきすゑ大狛法師をうち殺
しをはんとするに山背大兄まうして諸才等
とおもうて山の中よりいだし守れ
塔の内うに入て大せいうんと立てのこりなく
皆三明の智ううしていまこんごのとき
もとうしびうしれ仏言とうりこれとう
うふにわうてうあくごとうをなすべからず
皆ろぐうくれ与にうどこ
うんを称ぐうくれ男とすてそ
うんを称ぐうくれ女を蚕児の上ふわそび

めひそう浄土の華うてな
げて大ふらひ給う雲気都烈して上り烟
雲を通して天上を

三の道種くれ

仙人

散種くの

妓楽の散種くの

天女の散種くの

くうふ敬礼と

白毫光

みぞ

ちりと

なげきて云

みそちれ

垂魂

天人

ちりなと

くう現して

ひうく

光明炫耀して

天花雲を

とんぐの

妙なるひぐさ

阿のくわぶ

とんの

国立国会図書館　　タイトル『太子伝記』　請求記号

ふると賊臣ホが国ぬすびとたぐ
んまこ徴毒もの上ふるふとと
賊臣太子のこ系とるふ
ふとてすもふぐ
ふふとふさもとふふ
つふふふてやれふふふ
やふ門ふふびんとものこふりとふを
と後ふふ門こぞりてこふ
がふふふふふふふとふわやしへさ
三年甲辰冬十一月大臣并入鹿二の家と伝

ふふれとふにふふ臣のこ家めふ外み城垣を
ふふりて呉食とけふふふふ
てこ門ふふふ後名つまて祖ふ殤者と大臣
おごりて君とふぐ詠ふすふ詠日
みいふふふ河のふふれとわやしむみ
ゆふ天皇位と皇太ふりゆふ
皇祖母ふるふふ詠ふ
一云甲辰年三月八日東方ふふれ
雲氣とびふふふ宮の上ふふ
天ふつふふ

是歴録
れ文や

国立国会図書館　タイトル『太子伝記』　請求記号
ガラス使用

わりくみ二の赤牛（のごと）

（わら）とほりて

それとわ

ものも

（わら）

（わら）

（わら）

又幸あいあるまりて
そのうへこうもの
ふひていまる山華のかう
又讃あり云
屋よし誠のうてれえびそう
あひるるもり称うて
於二の讃をは先生れる孫いまかろ給
いまりしおもりてまれる孫をそび
給てもうもをまりまを
又読庚午九年四月二十日の夜半あ

ク寺ひつまりとうれども唐縁あり記を
これ〻是推古天皇十五年ヘ
又説云寺史れりぐうへ
ちの処とこうひまりまの処へ
百済の入法師云へ
蜂岳ちと仕うひて楓野う
る弁田寺と仕うる又百済の開法師勅
法師下氷君新物等三へ合て三井寺と
仕うる又云太子平生之日つまの歌ての液
ドうく告て誠小うまの書と馬とゆと

国立国会図書館　タイトル『太子伝記』　請求記号
ガラス使用

まそて馬子と
ものいもと沼で天下れ大
ものとめてうけて
ものの名秀者
ものもれども命
ものもの日の調る兄馬の
ものもれを雲と
ものもの生年八十
ものもの足人
ものもの安寺住
ものもの天智天皇元住八
ものもの年十三のえられ
ものもの河と十八
ものもの家して備
ものもの

のいもと天智天皇元住二年
舎人宮池坊の太生年十六
舎人物部の田猟するとこのひな
てなめくなりもそれ
りとて出家して法隆寺に移り
太子これと孔
と文月頼とうてうとき
て死舎人物部連兄丸のひとり
家れそこの経
舎人膳臣活田を納書り
舎人物部連兄丸のひとり

国立国会図書館　タイトル『太子伝記』　請求記号
ガラス使用

ありけるものうらやましく思ひ食を断り後世を
ねがひつゝ小左右小行ひつゝ
しかるに国造をたのもしてまでて小仁
の位と云て人と除てかうして民こゝ等
ありこゝろ不合とを云て小まうる者数十百人
そのつゝりとゆを家人馬草衣着装中
見大吉波多大養弓削許毎河見等十人
奴婢并首領とすその風みいに法隆寺より
行りわらて已天と寺にとる婢黒女奴
連九ホけるうへ宍粟臣連九が才益浦

三十代
孝徳天皇
諱天萬豊日天皇難波長柄豊前宮治十年
元年乙巳すめらみこと太郎とをの
らびて蘇我氏入鹿入
是之君臣のつゝでとうい社稷れ移り
ありふるときに天皇と
これとうれへてすめらみことをも

国立国会図書館　タイトル『太子伝記』　請求記号
ガラス使用

済ること（今れ葬余氏の祖）
二のみこ（ともいみじう）
て（檜小藤弘山田石川九大臣）
しゝて（婚姻のしるし）
て事（とゝのほりぬ）
紡来（すでにおはりて）
ゝる（つき）
よゝ（大兄皇子）
古人（入鹿）

（匡済の）
（中大兄皇子と）
（内のみやけ）
（三韓）
（奉）
（天皇）
（ひ給ふ）
（ことのり）
（給ひ）

しゝて（夜深）
て解（入て座）
石川九三韓の表（とゝりて）
ゝゝ長槍（とりて殿）
（側ふれ給ふ）
（連等ゆゝと）
（伯）
連子九ゝ（この稚犬養連網田二人と）
ゝく専斬（さゝ）
てすゝめ（石川九臣）
（入鹿）
ゆゝふゝ（天皇と）

（連）
（助）
（帯）
（ゝゝ）
（ゝゝ）
（ゝゝ

かうとて中大兄皇子等が入鹿が
いきほひをおそれてすぐに海さうに入鹿て咄
哉とのたまひすると入鹿とうてを頭
すみやかに板とうとうぶりて入鹿とうてを頭
うちおもてを一のあしとうてをかうぶりつつ座う
よりひつさて中頭てまうさく恩寵とうれ活
うきよりて兄王子等に天皇をかしこまつりて
なまふさくすると中大兄皇子地ふみて

まうしてまうさく入鹿とうてを天宗をか
うがりて皇位とうてをゆづりたまはんとす
意の山背大兄皇子等と我しうとを
一族中大兄皇子をたすけまつりて入
鹿が天位とうてをうばはんとするとうてあと
天皇にもうさく大殿ふる門をかたくとぢ
つつしみふる兵等うてをもちて
のりて入鹿とうてを屍とうてく
又蝦夷とうてをも誅ふとよ
ゞしてもうさく天皇記冊記訖

国立国会図書館　タイトル『太子伝記』　請求記号
ガラス使用

室とやうち大臣蝦夷つゐ自殺門
こぞりてつとせれ一旦みてろびろ
聖徳太子平生し

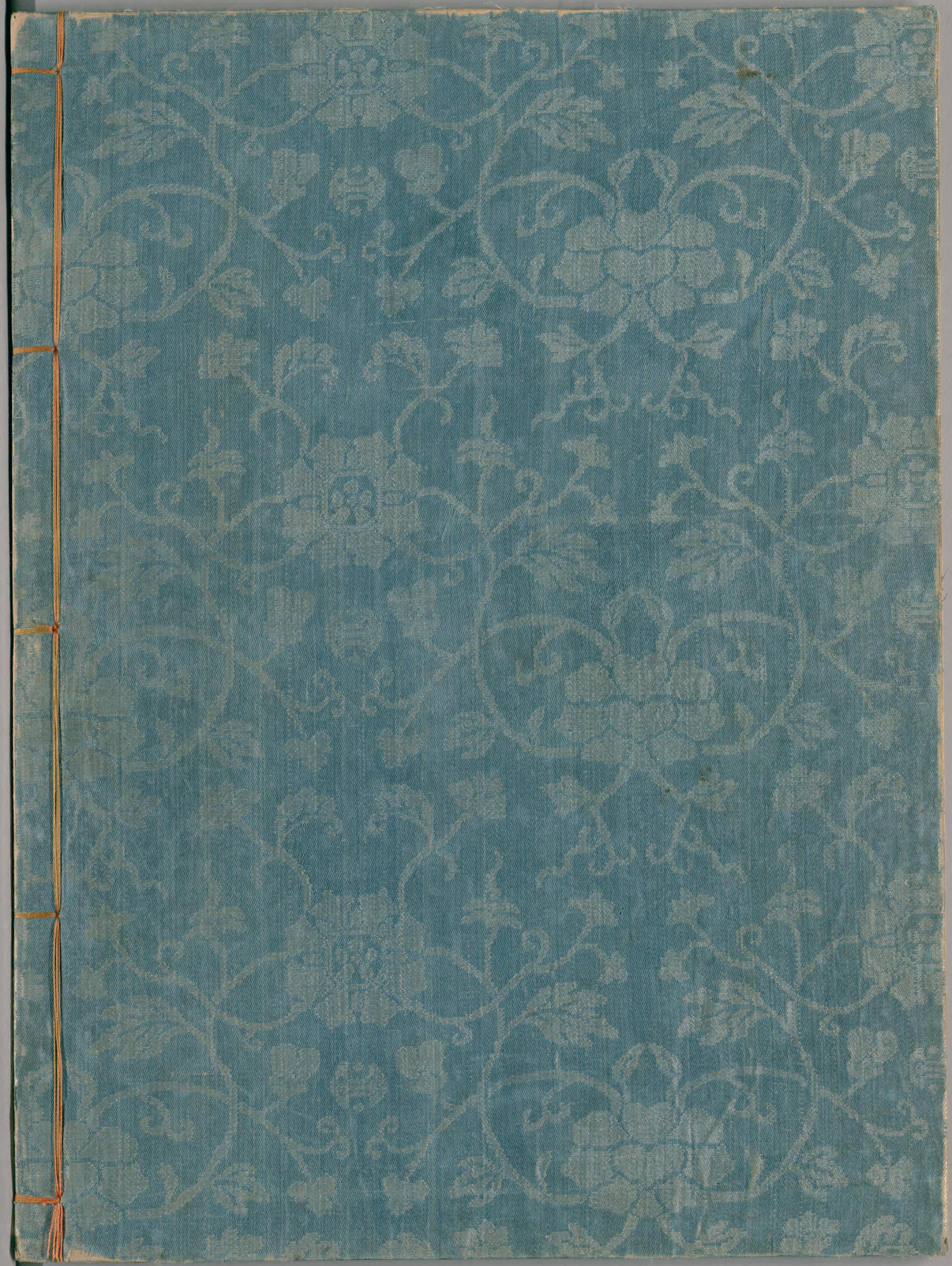
うげさ周囲の
ひくろこと
うう
和

聖徳太子入胎之始在世之行薨後之事
日本書紀四天王寺塵奥有之聖徳太子傳
并無名氏撰傳補闕記等有之其大略ハ載
て奏曲と尽さゝて而今新旧百濟寺老僧ノ
遇ノ古老録傳太子行事奇蹤之書三
巻とおぼしき四巻暦録と比校かに年暦一
も誤ることそ余が悟大小悦て先一暦ノ我を
恐ハ言ん経らるゝとゝりて覧者哂と没さん
ことと庶幾ハ小説と書ことそ彼聖跡と貽を
妙徒と潤色するのこゝろんや賛曰

微哉佛法　杳矣玄風
當来無終　託生錬骨
歴渉沙劫　徹献巨窮
降跡王宮　玄化後世
奇蹤妙轍　遺習細衆
底傳幻童　已去無始
現死還新　我伊太子
知之有通　拾集成卷

国立国会図書館

国立国会図書館　　タイトル『太子伝記』　請求記号



国立国会図書館　　タイトル『太子伝記』　請求記号

ガラス使用